

第 12 回北海道地方会

セッション紹介（抄録集）

企画セッション（15:10～16:40）

Ⅰ 講義企画 いま知りたいウィメンズヘルス

【講師】

柴田 綾子 先生（淀川キリスト教病院 産婦人科）
鈴木 怜那 先生（一般社団法人 SRHR pharmacy PROject /りんごちゃん薬局）
浅井 しのの 先生（株式会社 asai）

【抄録】

ウィメンズヘルスについて、「最近の話題も知りたい」「現場での対応、これでいい？」と感じたことはありませんか。本企画では、医師・薬剤師・フェムテック企業の三者から、月経やピルの基礎的な内容に加え、薬局での相談対応や緊急避妊薬など最近のトピックまで幅広くお届けします。そして、働く女性のリアルな話や、生理痛や人工経血を用いて体験型で学ぶ婦人科系疾患の啓発活動の取り組みについてお話しします。後半の質疑応答では、日頃のモヤッとした疑問を一緒に考えてみましょう。

Ⅱ シンポジウム 「患者協働」を組織や地域で実装するには？

【シンポジスト】

青木 拓也 先生（東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター臨床疫学研究部准教授）
大島 寿美子 先生（北星学園大学文学部 心理・応用コミュニケーション学科教授）

【ディスカッサント】

川口 篤也 先生（函館稜北病院 副院長/総合診療科科長：医師）
幌 沙小里 先生（勤医協とまこまい訪問看護ステーション 看護主任：看護師）
竹部 衿花 先生（センター薬局グループ はまなす薬局：薬局薬剤師）
武市 浩之 先生（市立美唄病院地域連携相談室 室長：事務／MSW）

【抄録】

プライマリ・ケアにおける患者安全には「患者協働」は不可欠な要素ですが、組織や地域レベルで社会実装するには多くの課題があります。本シンポジウムでは、「患者協働」を組織文化として深化・強化するための具体的な方略を検討します。まず臨床疫学研究の視点から青木拓也先生（東京慈恵会医科大）、コミュニケーション学の視点から大島寿美子先生（北星学園大）に講演いただき、研究や実践の知見を共有していただきます。続く総合討論では医師、看護師、薬剤師、医療事務等の多職種がディスカッサーとして加わり、現場での取り組みや障壁、組織に実装する鍵を多角的に議論します。各職種の専門性を掛け合わせ、地域全体で患者と共に歩む医療体制をいかに構築すべきか、その具体的な実装の道筋を参加者と共に探究していきます。

■ワークショップ 明日からやってみよう！外来・診察室でできる“ワンポイント・リハビリ”-実践編-

【講師】

- 小林 英司 先生(札幌医科大学、理学療法士)
堀 哲也 先生(帯広協会病院総合診療科、北海道家庭医療学センター、医師)
松崎 由里子 先生(日本医療大学保健医療学部、理学療法士)
谷口 達也 先生(日本医療大学保健医療学部、理学療法士)
水本 淳 先生(北海道文教大学、理学療法士)

【抄録】

プライマリ・ケアの現場では、「明らかに身体機能や動作に困りごとがあるけれど、専門各科へのコンサルトやリハオーダーを即断するほどでもないし、現実的でもない」場面によく遭遇します。このような時、一言でも具体的なアドバイスができたらと感じますが、その選択肢は意外と限られていることも多いと思います。この企画では各分野の理学療法士を講師に迎え、外来待合・診察室など限られた場面でも実践可能なワンポイント・リハビリ方法を演習します。自分の体を使って感じて学び、「日常的な困りごとへの対応」の“質”を底上げしてみませんか？

■カフェ企画 看護師部会 PRESENTS「あなたのやりがい」話しませんか？

【企画担当】

- 大久保 彩織 実行委員(家庭医)
山崎 礼子 実行委員(北海道家庭医療学センター 栄町ファミリークリニック看護師)

【抄録】

プライマリ・ケアの現場では様々な専門性を持つ多職種の皆さんが、それぞれの視点で地域住民の健康を支えています。しかし、日々の業務の中で皆さんがどのような思いで仕事に向き合い、何に「やりがい」を感じているのかをゆっくり話す機会は意外と少ないのではないのでしょうか？本企画は看護師部会が中心となり、様々なキャリアを持つ看護師の話をきっかけに職種を問わず誰でもふら～っと、フラットに語り合えるような「カフェ」のような交流の場を提供したいと考えています。当日はお菓子とコーヒーを片手にリラックスした雰囲気の中で、楽しく語り合い、新しい気づきや他者の視点に触れることで自身の仕事の価値を再発見し、明日からのチームケアが少し楽しくなるような、北海道らしい暖かい繋がりを造る時間を皆さんと共有したいと思います。

基調講演(16:55～18:05)

「患者との協働とPPI(患者・市民参画)の実現のために」

【講師】

- 山口 育子 先生(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長)

【座長】

- 田村 英俊 実行委員長(寿都そよかぜ薬局)

【抄録】

本講演では、1990年の発足以来、医療者と患者の「協働」を理念に活動を続けてこられた認定特定非営利活動法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長・山口育子先生をお迎えします。ご自身の闘病経験を原点に、医療コミュニケーションのあり方、患者・市民参画(PPI)の推進、そして医療者教育や仕組みづくりの面から、患者と医療者が対等なパートナーとして歩むための実践を発信してこられました。本地方会のテーマである「多職種で取り組む患者協働～Patient Engagement～」に通じる、真の協働の意味とその実現に向けた課題を、豊富な経験と具体的事例を交えてご講演いただきます。